

平成23年度 農業試験場放射能関連試験一覧

1. 農作物への放射性セシウム(Cs)吸収抑制試験

○水 稲

試験項目	実施場所	内 容	結 果
加里の施用効果検討	黒磯農場	塩化加里、大谷石施用による放射性Cs吸収抑制効果を検討する。	水田土壌中の交換性カリウム濃度が20mg/100g未満の場合、放射性セシウムの玄米への移行係数は比較的高い傾向を示したが、20mg/100g以上となるよう加里を増施にすることにより移行係数が低下する傾向を明らかにした。 H24年度も実施中。
有機物の連用効果検討	本場	有機物連用が放射性Csの吸収抑制に及ぼす影響を検討する。	堆肥連用区(28年間の連用)では、土壌の交換性カリウム濃度が30mg/100g程度に高まり、玄米への移行係数が比較的小さくなる傾向が確認された。 H24年度も実施中。

○大 豆

試験項目	実施場所	内 容	結 果
加里の施用効果検討	現地試験(那須塩原市)	加里施用による放射性Csの吸収抑制効果を検討する。	施肥基準に基づく施肥を行った場合、加里3倍増施、大谷石粉末施用による子実の放射性セシウム濃度低減効果は認められなかった。 H24年度も実施中。

○麦 類

試験項目	実施場所	内 容	結 果
加里の施用効果検討	黒磯農場	加里施用による放射性Csの吸収抑制効果を検討する。	H23年度結果をとりまとめ中。 H24年度も実施中。
各種資材施用効果の検討	黒磯農場	ゼオライト、大谷石の施用による麦類への放射性Csの吸収抑制効果を検討する。	H23年度結果をとりまとめ中。 H24年度も実施中。

○ホウレンソウ

試験項目	実施場所	内 容	結 果
加里の施用効果検討	本場、黒磯農場	加里の慣行2倍、3倍施用による放射性Csの吸収抑制効果を検討する。	試験土壌に施用した資材による放射性Csの吸収移行抑制効果は判然としなかった。 今回試験を行った土壌の放射性Cs濃度レベル(本場:154Bq/kg、黒磯分場461Bq/kg)では、土壌に施用した各種資材の有無に係わらず、放射性Csの吸収は検出限界値以下になることが確認された。
各種資材施用効果の検討	本場、黒磯農場	ゼオライト、大谷石の施用によるホウレンソウへの放射性Csの吸収抑制効果を検討する。	

○ブロッコリ

試験項目	実施場所	内 容	結 果
加里の施用効果検討	本場	加里の慣行3倍施用による放射性Csの吸収抑制効果を検討する。	試験土壌に施用した資材による放射性Csの吸収移行抑制効果は判然としなかった。 今回試験を行った土壌の放射性Cs濃度レベル(108Bq/kg)では、土壌に施用した各種資材の有無に係わらず、放射性Csの吸収は検出限界値以下になることが確認された。
各種資材施用効果の検討	本場	石灰、ゼオライト及び大谷石の施用によるブロッコリへの放射性Csの吸収抑制効果を検討する。	

注) 大谷石:2mm以下の粉末

2. 県内農耕地及び水田ほ場内での放射性Cs濃度の経時的推移調査

(1) 土壌の定点調査による放射性Csの農作物への影響調査

対象作物名	調査ほ場	内 容	結 果
水稲	現地調査	放射性Csの植物体への移行と土壌成分等の関係を検討する。	水稲では、土壌中の交換性カリウム濃度が20mg/100g未満の場合や、土壌中の炭素含量が多いと放射性Csの移行係数が比較的高くなることが明らかとなったが、大豆では、明確な傾向は得られなかった。 H24年度も実施中。
大豆	現地調査	放射性Csの植物体への移行と土壌成分等の関係を検討する。	